



# しいのみつうしん



第59号 2012年11月



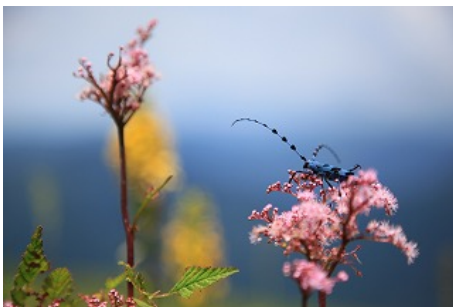
## 伊吹山は、・・・

### —山頂から山麓まで植物の楽園—

#### 伊吹山の植物と植生分布

滋賀県最高峰の伊吹山(標高 1377m)は、日本のほぼ中央に位置し、寒冷期に北方系の植物が南下してきたり、日本海に近いことから日本海側斜面で分化して生育地をもつ植物も存在します。また地層は古生代二畳紀の石灰岩層からできていることや、冬期寒冷な日本海気候の影響を受けることから伊吹山の固有種が生まれました。

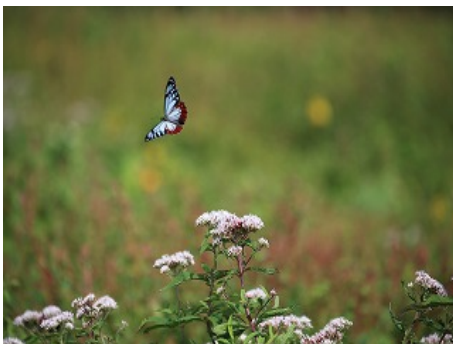
伊吹山山頂一帯は国指定天然記念物、「伊吹山頂草原植物群落」の山地草原は美しい「お花畑」になっていて、昔からす草本植物の宝庫として世に知られ、多くの学者により調査がなされてきた、植物研究史上、貴重な山です。



#### シモツケソウ

バラ科、花期：7月下旬～8月下旬

関東地方以西の本州～九州の山地に生える草丈 30～80cm の多年草。径 4～5mm の真紅の小花が集散花序に多数咲く。果実に縁毛がないのが近縁種との区別点である。伊吹山頂のお花畑の優占種である。



#### アサギマダラ

標高の高い山地に多く生息する。アサギマダラの成虫は1年のうちに、日本本土と南西諸島・台湾の間を往復していることが知られている。

#### フジバカマ

アサギマダラはフジバカマの蜜に含まれるアルカロイドを取り込むことで毒化し、敵から身を守っている。

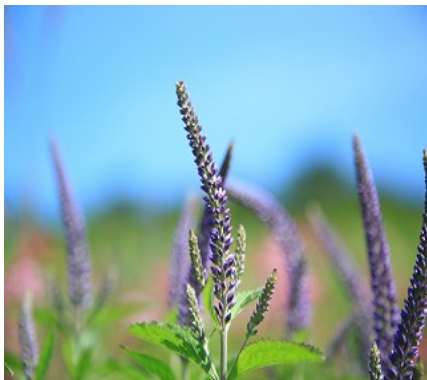
#### 保護される伊吹山の薬草

伊吹山は古くから薬草の山として知られています。大正8年(1918年)6月、滋賀県は「伊吹山薬草採集取締規則」をつくり、薬草28種を知事の許可なく採集することを禁じ保護に努めました。その後、

昭和 11 年(1936 年)に許可を受けるべき薬草を 30 種としました。伊吹山の植物は約 1300 種、そのうち薬用植物は薬 280 種で、実際に医薬品になるもの、民間薬として使用されているものは、約 300 種を数えるといわれます。煎じたり、蒸したり、お茶にしたり、お酒につけたり、利用方法はさまざまです。

## □伊吹山で採れるおもな薬草と薬効

花名	薬用部位	薬効
イカリソウ	地上部	健胃、強壯、低血圧症、不眠症等
イブキジャコウソウ	茎葉	咳止め
ノイブキトラオ	根茎	下痢、口内炎、扁桃炎、腫れ物
クガイソウ	根茎	利尿、消炎
クララ	根	抗潰瘍、消炎
サラシナショウマ	根茎	発汗、解熱、解毒、扁桃炎、口内炎等
セリバオウレン	根茎	健胃、眼病、口内炎等
センブリ	全草	健胃
ツリガネニンジン	根	咳止め、痰切り
トチバニンジン	根茎・果実	胃炎、消化不良、健胃、痰切り
ヒメハギ	全草	咳止め、痰切り、のどの腫れ、打撲傷等
ワレモコウ	根	下痢、止血、打撲傷



クガイソウ

ゴマノハグサ科、花期:7月下旬~8月中旬

日当たりのよい山地草原に生える高さ 80cm~130cm の多年草。葉がふつう4~6枚茎に輪生して9段につくので九蓋草または九階草の名がある。花色はふつう青紫色、まれにピンク色や白色を見る。山頂に多い。

## 織田信長の幻の薬草園

織田信長は永禄年間(1570~88年)に、ポルトガルの宣教師に伊吹山で 50 畝の土地を与えて薬草園を造らせ、本国から約 3000 種の薬草を移植した、という言い伝えが「切支丹根元記」「切支丹宗門本朝記」「南蛮興廃記」にあります。

これらは百数十年後にできた江戸時代の俗書なので確かなことはわかりませんが、ヨーロッパ原産の牧草であるキバナノレンリソウ、イブキノエンドウ、イブキカモジグサなどが古くから伊吹山のみで自生することがわかっています。おそらく薬草とともに移植されたと考えられ、これらを史実として信じざるをえません。

けれども現在薬草園の痕跡もヨーロッパ原産の薬草もまったく残っておらず、場所の記録もありません。まさに幻の薬草園といえるでしょう。

(出展:山と溪谷社 「伊吹山自然観察ガイド」)